

令和6年5月本館移転に伴い、調理システムを見直しニュークックチルシステムを導入いたしました。それまでの調理は提供日に調理を行うクックサーブ方式での食事を提供してまいりました。クックサーブ方式では、食事提供時間に影響を受け、はじめに調理された料理は、最終調理される料理が完成するまで「保温状態」に置かれることになり、食中毒などの発生リスクとなります。また、調理から盛付の時間が短いことによる盛付ミスなどのリスクも発生する原因につながります。ニュークックチルシステムを導入することでこれらの問題点を解消し、より安全で衛生的な食事、患者さんに満足いただける食事の提供を目指してまいります。新しい厨房は2箇所が1箇所になり、HACCP(食品を製造する際に工程上の危害を起す要因を分析し、最も効率よく管理できる部分を連続的に管理して安全を確保する管理手法)の考えを取り入れた高いレベルの衛生管理が可能となります。また、安全な食事を提供するために「集中温度管理システム」を導入し、調理から配膳まで調理の温度と時間を計測、確認、記録しています。

『ニュークックチルシステム』とは、加熱調理したものを短時間でチルド状態(0~3℃)に冷却し保管します。チルド状態で食器に盛りつけ、お盆に1食分ずつセット後カートに入れ、カート内で再加熱を行います。最終的な調理加熱後すぐに患者さんへ食



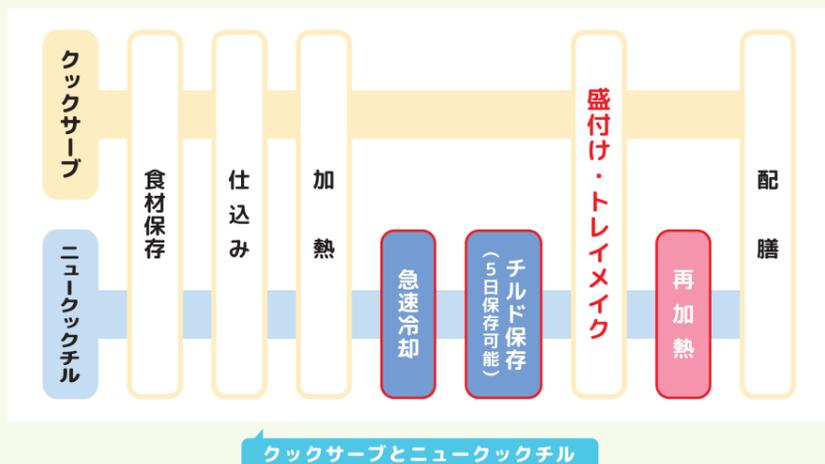
トレイメイク
温度管理された部屋でチルドの料理をトレイにセットします



再加熱
配膳カートをセットし再加熱を行います



配膳カート



事を配膳しますので、食事は温かい料理は温く、冷たい料理はそのまま冷たい状態の適温で提供されます。急速冷却後の食材はチルド的环境下で5日間の保存が可能とされ大量調理面で作業効率を高められる調理システムです。計画調理が可能となり、調理スタッフの出勤時間を遅らせる、調理作業の効率化・平準化による人数削減の利点があります。また、チルド状態で食品を扱うので衛生的であり、再加熱後は食品に触れず二次汚染のリスクを軽減できます。

新しい調理システム導入のため、まだまだ毎日試行錯誤しながら

運用を行っている状態です。栄養部、給食委託会社のスタッフが協働し、より安全でおいしい治療効果のある食事の提供を考え、患者さんに喜んでいただける食事づくりに取り組んでいきます。



栄養部 技師長
管理栄養士 **倉橋 操**
くらはし みさお

福大病院 No.128

ニュース

Fukuoka University Hospital News

本館が開院しました

福岡大学病院は昨年8月に開院50周年を迎えました。今年には2021年10月に着工した本館が、2024年5月7日に開院した記念すべき年でもあります。

本館建設にあたっては「Make Future Hospital」をスローガンとして以下のコンセプトを掲げました。

- ・病院理念の実現と基本方針の遂行
- ・安全な医療の提供
- ・患者さんにやさしい病院
- ・近未来の医療環境に対応できる病院づくり
- ・高度先駆的医療が提供できる病院
- ・わかりやすい医療を提供する病院
- ・地域医療の中心的な役割を果たす病院

これを機に全職員が理念である「あたたかい医療」を再確認し、患者さんに寄り添った安心・安全な医療を提供し、地域医療の中核病院であることに支援する病院であることを念頭に、未来に向けて飛躍の年にしていきたいと思えます。また、大学病院改革ガイドラインに沿った持続可能で健全な財務・経営と共に、働きやすい幸ある適正な労働環境を整備する「健幸経営」を推進します。

開院に先駆けて、4月6日に新本館開院記念式典・内覧会を行いました。ご多忙にも関わらず多くの方にお越しいただきありがとうございました。改めて御礼



本館(左奥)と中央棟

申し上げます。

本館は延床面積5万1,000㎡を超え、地下1階から地上11階建てで屋上にはヘリポートを備えています。病床数は618床を有し、中央棟と合わせると総病床数は771床となります。大学病院としてハード面の機能がさらに充実し、安全で快適さと安らぎを提供できるようやさしい病院づくりに努めています。

今後も特定機能病院として、高度な質の高い安心・安全な医療を提供するとともに、災害拠点病院として地域医療をしっかりと支えられるよう邁進してまいりますのでご支援をよろしくお願いいたします。



ハイブリッド手術室



福岡大学病院
病院長 **三浦 伸一郎**
みうら しんいちろう

Open! 当院では、各種SNSを開設しています!

福大病院ニュース

公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCYwM03PwlaDYNvXTXVUocA>



Facebook
<https://www.facebook.com/FukuokaUniversityHospital/>



twitter
<https://twitter.com/FukuokaUnivHosp>



instagram
<https://www.instagram.com/fukuokaunivhosp/>



福岡大学病院

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
TEL (092) 801-1011(代) URL: <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>



脳神経内科

診療部長就任のご挨拶

2024年4月1日付で、脳神経内科の診療部長を拝命いたしました。私は1997年に福岡大学医学部を卒業し、その後は福岡大学病院や関連病院で研鑽を積んで参りました。2014年から3年間は東海大学医学部脳神経内科に所属し、2017年からは昭和大学藤が丘病院で脳神経内科における診療、研究、教育に携わっておりました。

脳神経内科は、「考える」、「見る」、「話す」、「食べる」、「表情を作り出す」、「動く」、「歩く」、「感じる」などといった、日常生活で何気なくしていることができなくなった時に、脳や脊髄、末梢神経、筋肉などに病気がないかを調べて、必要に応じて治療を行う診療科です。近年、日本における高齢化に伴いアルツハイマー型認知症やパーキンソン病などの脳神経内科疾患が増加しています。福岡大学病院では「もの忘れ外来専門センター」を開設し、医師と臨床心理士による正確な認知症の診断に基づいて、患者さんの生活環境に合わせたライフプランのサポートを行っています。昨年からアルツハイマー型認知症に対する新たな抗体治療としてレカネマブが使用できるようになりました。アルツハイマー型認知症に対する早期の治療介入によって症状の進行を遅らせることができれば、多くの患者さんにとって非常に有益であると考えています。また、「福岡パーキンソン病診療センター」では、パーキンソン病患者さんの病状に応じて



脳神経内科 医局員一同

適切かつ質の高い医療を提供しています。脳神経内科だけではなく、脳神経外科、歯科口腔外科、消化器外科の医師、専門の看護師、リハビリテーション技師、薬剤師、臨床心理士、臨床工学技師、栄養部と連携して包括的なパーキンソン病の診療を実践しています。パーキンソン病の治療として、これまでは内服治療が中心でしたが、長期に治療を続けていると薬の効果が徐々に低下していきます。このような状況において、最近では内服治療ではない皮下注射や脳深部刺激などの治療が発展しています。パーキンソン病患者さんの病状に応じて様々な治療選択肢を提案していきたいと考えております。

そのほか、多発性硬化症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎(CIDP)など、様々な神経難病の診療も行っております。さらには、脳卒中や神経救急疾患の診療を充実させて、地域医療にしっかりと貢献していきたいと考えております。

脳神経内科 教授・診療部長
医師 馬場 康彦
ばば やすひこ

医療安全管理部

医療安全管理部のご紹介と病院教授就任のご挨拶

2024年4月1日付けで、福岡大学病院医療安全管理部の病院教授に就任いたしました。私は2005年に福岡大学医学部を卒業後、臨床研修を経て、2007年に福岡大学医学部心臓・血管内科学講座に入局し、臨床・研究・教育に携わってまいりました。2017年に医療安全管理部の所属となり、医療安全管理者として医療安全活動に取り組んでおります。

福岡大学病院の医療安全管理部は、病院長直轄部門で、病院の理念である「あたたかい医療」のもと、患者さんに安全で質の高い医療を提供できるよう、医療環境および医療システムの改善、職員教育に日々取り組ん

でいます。メンバーは、医師、看護師、薬剤師、弁護士、事務の多職種で構成されており、各診療科や部署にはセーフティマネージャーを配置し、セーフティマネージャーと協働しながら医療事故や医療事故につながるヒヤリハットの情報収集、原因分析、改善策の検討、周知、改善策の実施状況のチェックなどを行っております。最近の取り組みとしては、全国的にも問題となっている患者さんの転倒・転落防止対策や患者誤認防止対策、放射線画像報告書見落とし防止対策、深部静脈血栓症の予防、院内救急対応システムであるRapid Response System (RRS)の立ち上げ、院内ガイドラインの整備、また、職員への

医療安全教育や心肺蘇生法/AED演習、CVCエコーガイド下穿刺ハンズオンなどの実技講習を定期的に行い、患者さんと職員の安全確保の体制を構築しています。

また、福岡大学医療安全管理部は患者相談窓口の業務も担っております。当院で提供する治療や看護ケアなどに対する患者さんの疑問に耳を傾け、患者さんと情報共有を図りながら信頼関係に基づいた患者参加型の医療の提供を目指しています。

福岡大学病院は、特定機能病院として高度な医療を安全に提供する使命があります。医療安全管理部は、今後も多職種連携をとりながら安全文化の醸成、患者中心の医療を推進してまいります。引き続きご指導、ご支援の程よろしく申し上げます。



医療安全管理部スタッフ

医療安全管理部 病院教授
医師 小吉 里枝
こよし りえ